

# 多摩のNICU不足深刻

新生児集中治療室

## 都議会 尾崎都議が拡充要求

日本共産党の尾崎あや子東京都議は26日の都議会本会議一般質問で、多摩地域でNICU(新生児集中治療室)が不足している実態を示し、増設など周産期医療体制の拡充を

猪瀬直樹知事に求めました。

尾崎氏は、多摩地域内の立川市など6市で構成する2次医療圏には地域周産期母子医療センターがなく、NICUも3床しかないた

め、未熟児出産の多くが府中市の都立小児総合医療センターや23区内の病院に搬送されると指摘。

産婦人科看護師の「母親は産後すぐの状態で、子どものため毎

日8回搾乳し冷凍して、病院に届けねばならず、肉体的精神的負担が重い」という手紙を紹介し、「多摩地域のNICUは63床で、23区の231床に比べ

少なすぎる。多摩格差

を埋める努力を」と訴えました。

そのうえで、「年間出生数1万人にNICU30床」という都の目標に照らせば多摩地域全体で100床、同医療圏では14床必要だとし、増床目標を明確にするよう迫りました。

猪瀬知事は「周産期医療体制の充実に努める」と答えましたが、多摩地域のNICUの増床目標については明言しませんでした。